

資料番号	R5-補-007
提出日	2023年11月22日

航空機墜落による火災評価フロー

インプットデータ；
技術ノート「航空機落下事故に関するデータ(平成13～令和2年)」(原子力規制庁, 令和5年3月)

【航空機落下確率算出】
落下確率の合計値が 1×10^{-7} 以下であることを確認

カテゴリ		落下確率 (回/施設・年)
民間航空機	①計器飛行方式	約 1.75×10^{-10}
	②有視界飛行方式	約 5.91×10^{-9}
自衛隊機 又は 米軍機	③訓練空域外の墜落事故	約 2.53×10^{-8}
	④基地-訓練空域往復時の墜落事故	約 2.13×10^{-8}
合計		約 5.3×10^{-8}

【航空機墜落による火災評価に用いる墜落確率算出】
カテゴリ毎に貯蔵建屋の外壁温度が 200°C 以下であることを等を確認。墜落確率の合計値は火災評価上用いない。

カテゴリ		墜落確率 (回/施設・年)	
民間航空機	①計器飛行方式	約 1.75×10^{-10}	
	有視界飛行方式	②-1 大型固定翼機	約 5.47×10^{-10}
		②-2 その他機種	約 5.36×10^{-9}
自衛隊機 又は 米軍機	訓練空域外の墜落事故	③-1 高高度飛行を行う大型固定翼機	約 2.49×10^{-9}
		③-2 その他機種	約 2.28×10^{-8}
	④基地-訓練空域往復時の墜落事故	約 2.13×10^{-8}	

(合計；約 5.3×10^{-8})

②-1, ②-2: 有視界方式民間航空機の各カテゴリについては燃料積載量等により, 自衛隊機又は米軍機の訓練空域外墜落事故の同機種のカテゴリに包絡される

